

2. 園路設計

2.1 整備方針と計画案

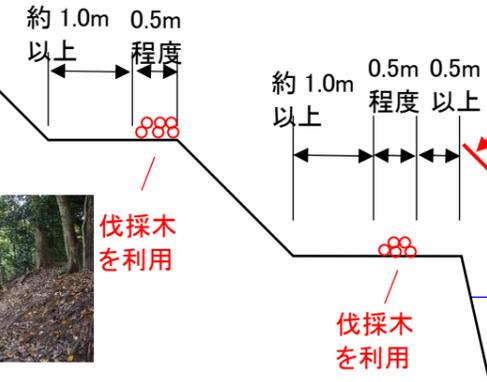
◆整備方針

- ・水際部は、利用者の水面への転落を防止、抑止するとともに、景観にも配慮する
- ・園路の幅員は、原則 1.0m 以上とする
- ・水際部は、転倒等による転落などの抑止にも配慮し、路肩までの 1.0m 程度の余裕を確保する。

◆計画案

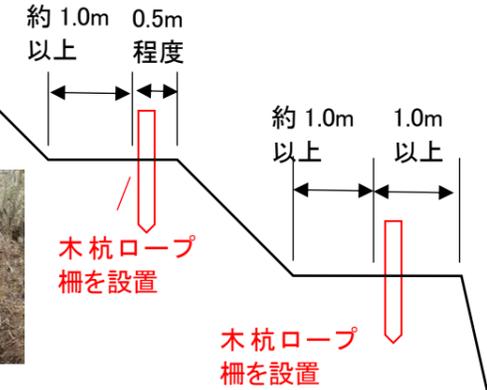
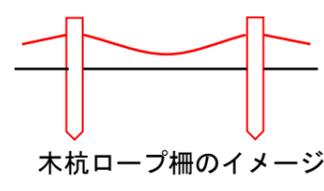
【1案：伐採木を利用する】

- ・転落を抑止するため、法肩部から 0.5m 程度離し 0.5m 程度の幅で伐採木を横倒しにして置いておく
 - ・ただし、水際部の一部の狭い区間では十分な幅員がとれないため、危険である
- 伐採木利用のイメージ



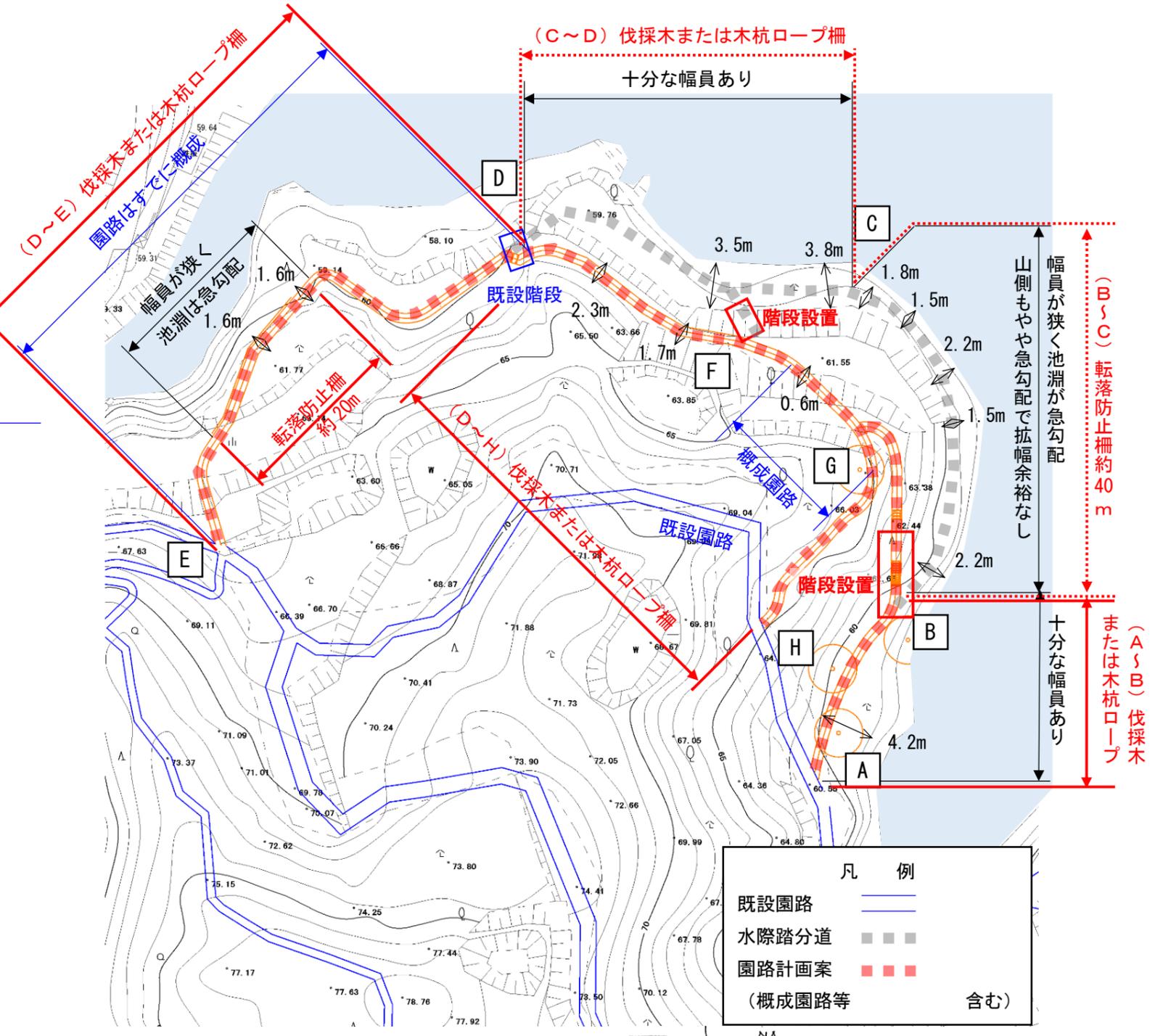
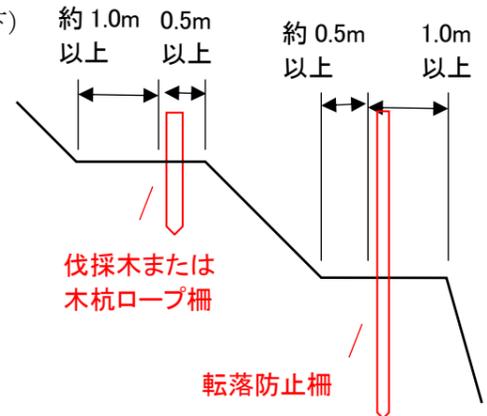
【2案：木杭のロープ柵を設置する】

- ・転落を抑止するため、法肩部から 1.0m 程度の範囲で木杭ロープ柵を設置する



【3案：水際部の幅員が狭い区間には転落防止柵を設置する】

- ・池側の幅員が狭い B~C 区間 (2.0m 以下) には、転落防止柵を設置する。
- ・ただし、一部に狭い区間が含まれる水際踏分道 (B~C~D 区間) を利用せず一段上の道 (D~F~G~H 区間、B~G 区間 (一部階段)) の園路計画案のみとする場合には、D~E 区間の一部の約 20m にのみ設置する。



凡 例	
既設園路	— (solid blue line)
水際踏分道	— (dashed grey line)
園路計画案	— (dotted red line)
(概成園路等)	— (dashed red line)
	含む

園内にある転落防止柵

